



湯ヶ島地区文学の郷構想

概要版

平成三十二年三月

伊豆市



構想策定にあたって

湯ヶ島文学の郷構想実現に向けて



今年1月に待望の天城北道路が完成し、伊豆市を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。文学といえば伊豆、とりわけ「湯ヶ島」の地は井上靖をはじめ多くの文豪がこの地を愛し、「言葉」という表現手段で作品をしたため、魅力ある作品が生まれました。老若男女がそれぞれの感受性の中で、その世界を読み進めるうちに文学作品の情景や主人公の気持ちとなります。数々の文学作品の舞台となった伊豆は、豊かな自然、温泉、旅館文化と合わせ日本を代表する「文学の聖地」となる可能性を秘めています。

こうした信念のもと、私は平成24年度に静岡県が開催している「伊豆文学フェスティバル」を伊豆市に誘致する機会に恵まれました。以来文学まつりとのコラボ等による情報発信により、市民にも伊豆の文学資源として認知度が高まりました。

また、昨年度は、日本ペンクラブとの共催により「川端康成の伊豆」を通じ、作品を育んだ伊豆の魅力を改めて認識することができました。

さて、本構想は平成29年6月「湯ヶ島地区グランドデザイン提案書」、29年10月に湯ヶ島地区地域づくり協議会からの「湯ヶ島地区地域振興に関する要望書」を受けてのものであります。「湯ヶ島の誇りである美しい風景と文学、歴史」を活かし「心地よく交流できる拠点づくり」を地域住民と事業者と行政が三位一体となり進めようとの共通認識のもと、伊豆市が取得した営林署跡地活用を中心としたまちづくりを進める指針ともいえるものです。

本構想の策定に際しましては、斎藤誠会長をはじめ、地域の方々が主体となり「湯ヶ島を元気に」、「この地域を元気にしよう」との思いが感じられ大変心強く思います。

本構想の策定を機に、文学、自然、温泉を軸とする湯ヶ島地区のまちづくりが力強く進められますことを、心からご期待申し上げます。

伊豆市長 菊地 豊



文学の郷づくり構想の実現に向けて

私は、「湯ヶ島の郷、大好き人間」です。多くの文人が湯ヶ島を愛し、数々の作品がこの湯ヶ島で生まれました。井上靖先生は少年時代を湯ヶ島で過ごし、代表作『しろばんば』は当時の湯ヶ島を舞台にして描かれています。

60年程前の湯ヶ島地区は、多くの観光客で賑わい、大変潤っていました。当時から自然環境も良く、子どもたちは夏休み期間中に毎日狩野川で泳ぎ、アユ、アマゴを獲り、寒くなると子ども用の野天風呂で暖をとるといった光景もよく見られ、温泉も大変豊富な湯ヶ島でした。

しかし、近年は主要産業のひとつである観光業の不振により地域に活気が無くなり、少子高齢化も進み湯ヶ島地区の衰退に拍車をかけています。

そこで「湯ヶ島地区地域づくり協議会」の会員である湯ヶ島地区の既存団体メンバー(約30名)により、湯ヶ島地区の賑わいを回復するための仕組みづくりが必要であると「湯ヶ島地区グランドデザイン策定会議」を平成28年8月に発足しました。11回の会議を経て地元としての構想を提案書として策定し、最優先取組事項として「上の家整備」と「営林署跡地の有効利用」を挙げ、行政に平成29年10月に提出しました。

この提案書をもとに、30年度に入り行政と共に最優先事項の2件の検討を重ねた結果、「上の家の整備」は縁側カフェを行い、地域住民の居場所として自由に立ち寄ってもらいつつ、外部からの見学者には、おもてなしとしてお茶などのサービスを行います。「営林署跡地の有効利用」については、地域住民の健康増進的な公園として散策路、芝生広場、イベント広場、水遊び場などを設け、多くの地域住民に利用してもらうことが、各部会を中心に検討され、市として策定する文学の郷構想に盛り込むこととなりました。

ここで重要なことは、ファンクラブが出来たことです。ファンクラブのメンバーが、芝刈りやイベントを企画し、公園を守って頂けることとなりました。どうか地域住民が一丸となって、活気を取り戻すよう頑張りましょう。行政へのお願いは、早期に構想が実現できるよう宜しくお願いします。

グランドデザイン推進会議 斎藤 誠



目指すべき姿とその実現に向けて

「私たちが住みたい湯ヶ島」は、湯ヶ島地区を抱く天城の自然や風景がいつまでも変わらずにありつづけることであり、それはかつて湯ヶ島を訪れた多くの文豪の思いにも通ずるものがあります。

湯ヶ島を舞台として描いた作品を追体験できるのは、やはりこの湯ヶ島です。また、この地域には、文豪が愛し、地元住民の生活に密着した温泉場もあります。

語り継がれてきた民話と文学の舞台である渓谷や山村の風景を美しく保全し、住民が誇れ、人々がいつまでも訪れる場所にしていくことを目指し、市では、文学の郷構想を策定し、ソフト、ハードの両面から事業を進めて参ります。

理
念

文学の郷の誇りを育み、文人の愛した
自然・街並み・人の交流を受け継ぐ

湯ヶ島ファンと紡ぐ清らかな地域



「ファン」とは、湯ヶ島を盛り上げていこうという気概のある住民はもちろん、地元愛を愛し、地域を良くしていきたいと思う住民といった幅広い関心を持つ方々に加え、湯ヶ島文学のファン、地域の交流拠点・文学拠点の利用者・活用者も「ファン」として捉え、湯ヶ島の盛り上げにご協力をいただきます。

対象エリア

しろばんばの里エリア

上の家、営林署跡地、コミュニティ複合施設を活用し、地域内外の人達との交流を深める場や、子どもたちが遊びながら、文学や湯ヶ島の歴史を学べる場にする事で、文学の郷の賑わいを生み出します。

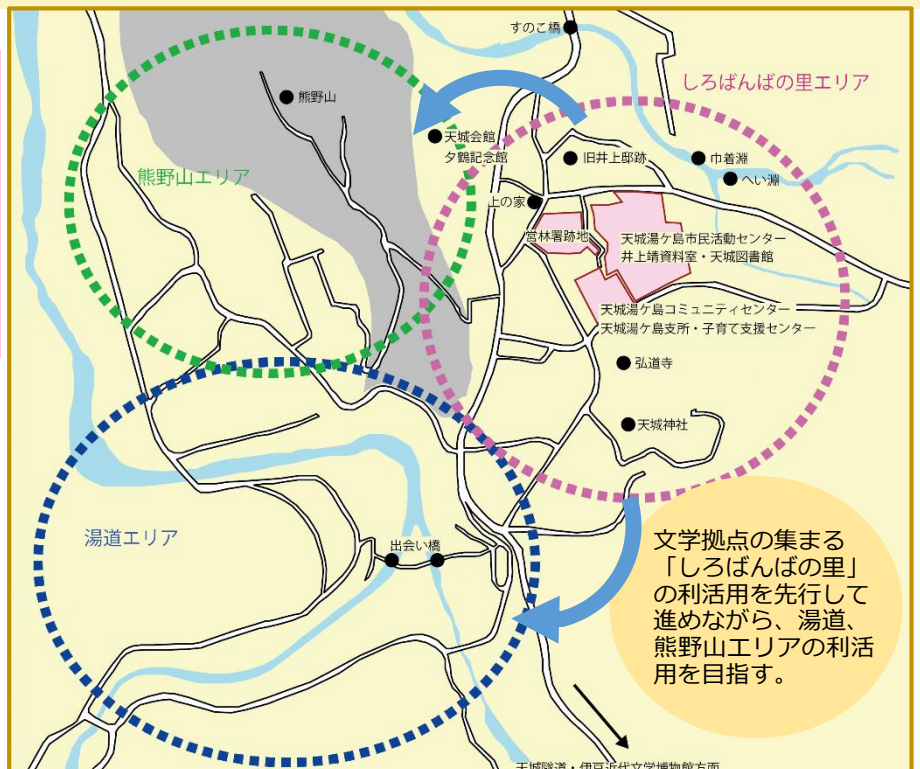
「文学・歴史」の雰囲気を感じてもらえるよう地元の人達の誇りや観光客の満足度の向上を目指します。

熊野山エリア

「熊野山」を中心に周遊し、湯ヶ島の美しい景観と「文学・歴史」を堪能できる遊歩道の設定・整備の実施を目指します。

湯道エリア

湯道周辺の美しい景観の維持や周遊しつつ学べるルートを作成を進め、併せて安全面の向上を目指します。

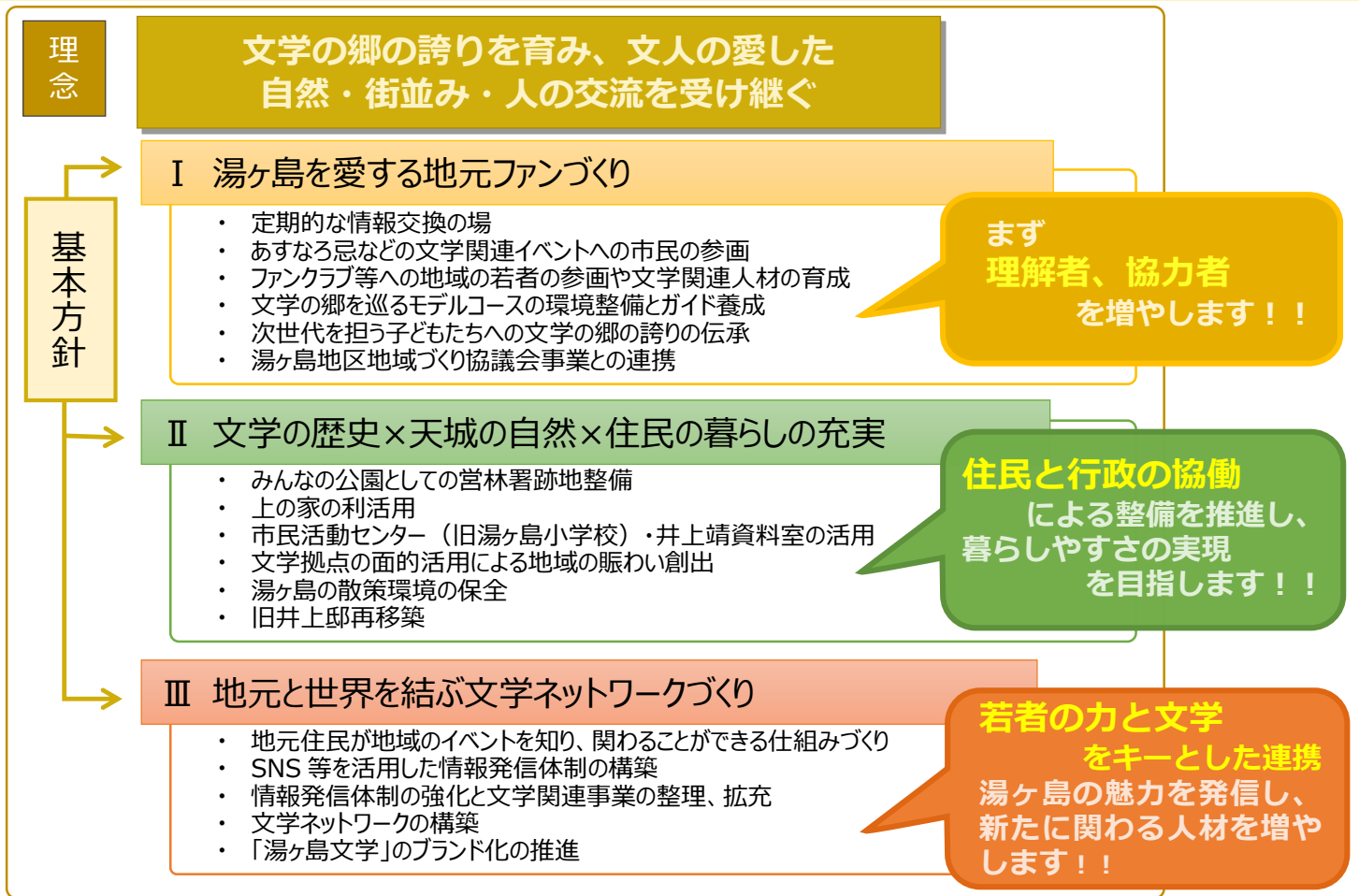


文学拠点の集まる「しろばんばの里」の活用を先行して進めながら、湯道、熊野山エリアの活用を目指す。

天城隧道・伊豆近代文学博物館方面



基本方針と具体的施策



重点プロジェクト

重点プロジェクト（1） ファンクラブ活動による地域の若者参画・人材育成

I 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

III 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり

湯ヶ島地区に点在する文学・歴史資産を活用しながら、地元主体の「ファン」が活動の中心を担う体制を構築します。この体制を地域づくり協議会や行政が積極的に支援することにより、文学を中心に賑わいづくりを推進する体制を整えていきます。

雑談感覚での情報を浸透

まずは、文学にとらわれず、様々なテーマでの雑談会やミーティング的なものを開き、個人の知識やアイデアを地元の皆さんで共有します。

協議会との連携とファンクラブの活動支援

協議会と連携して、地域に根差したソフト事業を進めます。ファンクラブミーティングを定期的に行い、体制を拡充します。



主な取り組み

- 地域の皆さんの「定期的な情報交換の場」を設けます。
→まずは「地域のすごい！」を住民の皆さんで共有できる場を設定します。
- あすなる忌などの地域のイベントを「地元と行政が協働」で行います。
→皆さんで地域を盛り上げる起爆剤にしていきましょう！
- 「子どもたちにも積極的に」地域の行事に関わっていただきます。

など、地域を盛り上げる人材を発掘、養成する取り組みを進めていきます。



「ファンクラブ」とは、地元住民、湯ヶ島文学のファン、地域の拠点の活用者たちが湯ヶ島を盛り上げるために一丸となる組織です。営林署跡地や上の家の活用、維持管理の方法等を皆さんで考えていきましょう！！

重点プロジェクト（２） 営林署跡地の活用とファンクラブによる地域住民主体の公園づくり

I 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

II 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実

III 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり

井上靖の小説『しろばんば』にも登場する営林署跡地を湯ヶ島地区の賑わい創出につながる拠点として活用するために、**公園としての整備を進めます**。整備後は、**ファンクラブを中心に**、地域と行政が連携した取り組みを進めますので、ぜひ皆さん、お力添えをお願いします。



【みんなの公園】
営林署跡地の整備

皆様のご意見を伺いながら、来年度以降設計～公園整備を目指します。ぜひ、公園の設計から皆さんで関わり、身近な公園にしていきたいと思います。

営林署跡地・上の家・コミュニティセンター・市民活動センター利用計画図



※公園の設計にあたっては、地元住民の意向を可能な限り取り入れ、整備を行っていきます。
 ※整備にあたっては、市の予算、地域の運営組織の構築状況なども考慮しながら、柔軟に対応していきます。
 ※道路については、測量により再度検討し、整備箇所を決定します。
 ※今後の計画については、都市計画、まちづくりに関する有識者の意見も参考にしながら進めています。

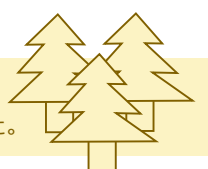
主な
取り
組み

- ・ 営林署跡地は公園として整備を進めます。
→ファンクラブを中心に地元の皆様の意見を伺いながら進めます。
- ・ 維持管理についても、地域を中心に行政と協働で進めていきます。
→地域の身近な公園として、皆さんで、積極的に公園の活用、維持管理を進めましょう。
- ・ 「みんなが楽しく利用できる公園」を目標に、文学・歴史散策の拠点、健康づくりの拠点など。

地元の皆様のご意見を伺いながら、整備を進めていきます。



「営林署跡地」とは、現在の森林管理署が、天城営林署として事務所を構えていた場所。
『しろばんば』作中時代は、帝室林野局天城出張所と呼ばれ、それ以前は御料局と呼ばれていました。



重点プロジェクト（3） 上の家の利活用

I 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

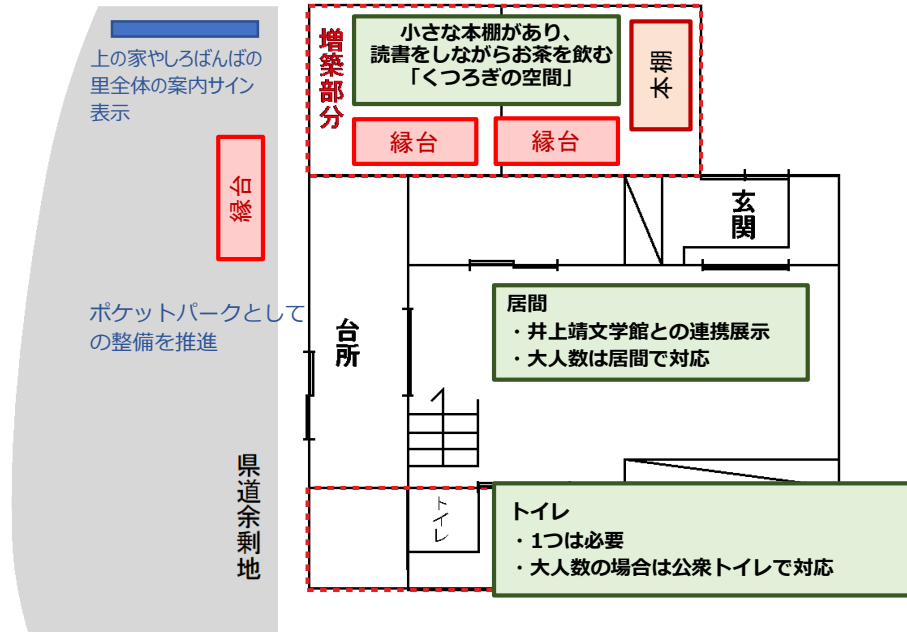
II 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実

III 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり

「しろばんばの世界の追体験」と地域の憩いの場として、上の家の利活用を進めます。地元の皆さんや井上靖ファンはもちろん、通りすがりの人も関心を持てる場所となるよう、皆さんで活用を進めましょう。

上の家版縁側カフェとしての利活用

上の家版縁側カフェを試験的にいき、無理のない運営が可能かどうかを検討します。並行的に整備に関する準備も進めていきます。



利用者
地元の皆さん
井上靖ファン

- くつろぎの場
お茶や塩おはぎ・わさび羊羹でのおもてなし
※調理が必要なものは扱わない想定
- 営林署跡地との関わり
公園にある四阿やベンチで上の家でもらったお茶を飲みながら読書
※営林署跡地との一体利用を想定
- 井上靖文学館と連携
文学の間口をひろげる体験や企画展示で協働し伊豆の文学巡りの拠点に

「上の家版縁側カフェ」の実証実験を行い、整備後イメージした上の家の活用方法を試行する。

実証実験等の取り組みの様子



実証実験の様子。展示には井上靖文学館にもご協力をいただきました。



スタンプラリー会場として、子どもが上の家を訪れる機会を作りました。



上の家で手芸教室も行いました。カフェ以外の使い方も可能でした。

主な取り組み

- ・上の家について縁側カフェでの活用を試験的にいきます。
→無理なく運営が可能かどうか、一定期間実際に行って検討します。
- ・整備については試験実施の様子を伺いながら、並行的に調整、準備を進めます。
→ハード的な整備について関係者と調整しながら、準備を進めます。

地元の皆様のご意見を伺いながら、ソフト・ハードの両面から進めます。



「上の家」は、井上家本家であり、井上靖の母・八重の実家。小説『しろばんば』にも登場します。明治6（1873）年、靖の曾祖父である潔によって建てられ、その後、祖父の文次が「かの屋」という呉服屋を営んでいました。なまご壁の残る風情あふれる建物は、『しろばんば』の世界を体感できます。



重点プロジェクト（４） 文学の郷を巡る周遊環境の整備

I 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

II 文学の歴史×天城の自然×住民の暮らしの充実

湯道エリアである湯ヶ島温泉周辺は、文豪と縁の深い温泉旅館が点在し、湯ヶ島の自然や空気感を楽しめる場所です。これらを活かすために、渓谷周辺の山林・歩道整備、旧下田街道などの趣のある街並みなどの景観づくりを進めます。

湯ヶ島の人たちが誇りに思う景観を地域で守り続ける

地元で愛される豊かな自然、文学・歴史資産、趣のある街並みなど、中学生アンケートの「20年後の天城湯ヶ島」として望む声が多かった「変わらない天城湯ヶ島」を実現するために、皆さんと整備していきます。

景観資源を活かした賑わいの創出

湯ヶ島を安心、安全に周遊できる環境を整え、小説の舞台となった落ち着いた街並み景観によって賑わいが生まれるよう資源を活用していきましょう。

主な取り組み

・湯ヶ島地区地域づくり協議会や地元関係団体の事業と行政の連携

→地元の皆さんと行政が連携し、景観の勉強会やまちづくり活動を行っています。

・景観に配慮した散策環境の保全、整備

→景観まちづくり計画との整合を図りながら、サイン整備、安心安全に周遊できる歩行者空間の創出やモデルコースの設定などの環境整備を進めています。

重点プロジェクト（５） 文学の郷情報発信プロジェクト

I 湯ヶ島を愛する地元ファンづくり

III 地元と世界を結ぶ文学ネットワークづくり

湯ヶ島地区の魅力を地域内外へ伝え、ファンを増やしていくためには、「文学の郷」としての情報発信と魅力的な商品・イベントなどのコンテンツが必要です。そのために、地元の皆さんで取り組むための情報発信体制をサポートし、文学関連のコンテンツづくりを進めます。

文学の郷の情報発信体制を強化

まずは地域の回覧板、地域づくり協議会のホームページを使って情報発信を充実していきましょう。行政や観光協会、旅館組合と連携して発信力を高めることもできます。また、各地の文学館と連携し、広域的な情報発信も行っています。

文学コンテンツづくり

既存のお土産等の商品やイベント等の文学コンテンツを充実させ、文学の郷を訪れる皆さんに魅力を伝え、満足度を上げていきましょう。また、新たな体験型イベントなども考えていきましょう。



地元切り絵作家や文学館との協働による手ぬぐいの開発



湯ヶ島限定！洪作少年のおめざ



豆まきイベントで伊豆の民話「お福と鬼」の語り聞かせ

主な取り組み

・草の根情報発信大募集

→若者の皆さん、イベントやかわいい文学グッズなど、是非 SNS 発信してください。

・文学ネットワークで、新たな文学コンテンツをつくりましょう

→文学館等とも連携して、湯ヶ島でしかできない文学コンテンツづくりを目指しましょう。

「おめざ」は『しろぼんば』にも登場している黒砂糖の飴。ひねり紙で包まれており、主人公の洪作少年は、よくこの飴をおめい婆さんにもらっていました。



文学の郷

文学の郷の誇りを育み、文人の愛した
自然・街並み・人の交流を受け継ぐ
～湯ヶ島ファンと紡ぐ清らかな地域～



湯ヶ島地区文学の郷構想 概要版
発行 伊豆市教育部 社会教育課
電話 〇五五八―八三一五四七六